

未来を見据える

Y大学：経済学部・経営学科・3年

期間：平成29年9月4日～6日（3日間）

インターンシップを通して、会計事務所の仕組みや仕事をする上での心構え、働くということについて多くを学ばせていただきました。初日はまず、事務所の体制をはじめ、業務全般の説明をしてくださいました。従来、会計業務は一企業に担当者が一人つき、全ての業務を一人で行いますが、Y事務所ではそれらの業務を部門ごとに分担しています。部門は、月間のデータ整理や帳簿作成を中心に行う財務支援部、年間の決算業務を担当する決算部、顧客と対話し経営についての相談や提案を行う経営支援部、管理部の4つに分かれており、一つの企業に各部門が関わりあいながら会計業務を行います。こうした分業体制をとることで、仕事の効率化が図られています。同時に、部門間でのコミュニケーションやチームワークが重要になってくること、また、法改正など企業を取り巻くルールや環境は日々変化していくため、常に勉強することが大切であることを教わりました。

続いて、2つの部門で業務を体験させていただきました。初日と2日目にお世話になった財務支援部では、元帳の作成や、出納帳と仕訳帳へのデータ入力を行いました。作成する元帳には工程表が添付されており、綿密なチェック体制が敷かれていました。数字を一つひとつ照らし合わせ、誤りがないうかが確認した上で書類を仕上げていきました。データ入力作業は、Y事務所のグループ会社が開発したソフトを使用して行いました。このときも必ず最後に数字が合うかを確認して作業を完了しました。一つひとつの確認作業は地道なものでしたが、その積み重ねが信頼されるサービスの提供に繋がるのだと、作業を通じて実感しました。

最終日に体験させていただいたのは、決算部の業務です。税金の申告書など決算に関する書類の打ち出しやファイリングを行いました。ここでも数字や書類の並びに間違いがないかを常にチェックしていきました。印象に残っているのは、指導を担当してくださった方の「自分を信用していない」という言葉です。聞いたときは驚きましたが、信用していないからこそ何度でもチェックするという言葉に、とても大切な考え方だと感じました。人はどこでどんなミスをするかわかりません。大丈夫だろうと慢心するのではなく、自分自身を疑うくらい徹底することで、仕事の質を高く保つことができるのだと思います。

全日程を通し、正確性や慎重さが求められることなど、当初のイメージと合致している部分もありましたが、部門内外のコミュニケーションの様子や和気あいあいとした雰囲気など、認識を新たにしました。また、初日に事務所の説明をしてくださった中で、「今後は未来会計が重視される」というお話がありました。会計の仕事はこれから機械に取って代わられると予想されています。その中で価値を提供できるのは、経営改善や提案など、未来を見る視点です。時代の流れを読み取り、この先の世の中で何が必要とされるのかを考えていく姿勢は、どのビジネスにおいても重要なことであり、私自身もこの考え方を大事にしていきたいと感じました。会計業界の現場で働く方々と業務を共にさせていただき、仕事への姿勢や考え方に触れることができたことは、私の中で非常に貴重な経験となりました。お世話になりましたY事務所の皆様、本当にありがとうございました。

税理士事務所でのインターンシップ

仕事に対する姿勢を学んだ5日間

U高等専門学校：経営情報学科・4年

期間：平成28年9月4日～9日（5日間）

私が今回のインターンシップでの体験を通じて一番驚いたことは、税務・会計が想像以上にコミュニケーションを取らないと業務が成り立たないということです。私のイメージでは、会計業務はひたすら事務所の中で数字と向き合って仕事をするものでしたが、確認のため何度もお客様に連絡を取り、毎月お客様の所へ伺い、監査を行い、様々な相談も受けている実際の業務に驚きました。

また、今回伺った事務所では分業制となっており、財務支援部、経営支援部といったような決算書を作成するチームと、それらをもとにお客様に説明をしていくチームというように、従来では担当者一人で行っていた業務を効率よく進めていくため製販分離という形をとっていました。そのため、各部門で専門的に業務を行うことが出来るということが分かりました。また、分業制にすることで部門間での伝達ミス等が問題となるため、指示書がたくさんありました。これらには、担当者の押印部分があり、担当者の業務が完了したら押印して、次の工程へと進んでいくシステムになっていました。

私は、5日間で様々な部門を体験させて頂きました。まずは、仕訳の打ち込み等の補助です。顧客の伝票を打ち込みやすいように加工したものを利用して、紙の伝票をパソコンでデータ化して行きました。このソフトは、自社で使いやすいようにプログラムが組まれているため、業務を簡単に進めることが出来ました。仕訳の打ち込みは、マニュアルに従って行いましたが、時々、マニュアルにないような仕訳等があり苦戦しました。このような場合、臨機応変に判断する力が必要であると思いました。

また、一緒にお客様のところへ伺い、業務を見学させて頂きました。ここでは、データの間違いないかをチェックし、社長さん方と話しをする際、見やすいように売上等のデータを作成します。話し合いの時は、データだけの話だけでなく、お客様の業種に関する話も交えながら経営の相談、サポートを行います。

そして、決算に関するお話も伺いました。税金といえば消費税ぐらいしかイメージない私に、様々な税金について丁寧に教えて頂きました。税金の処理もパターンによって複数あり、覚えるのが大変だと思いました。また、決算書は、税務署に提出する際、期限を過ぎると訂正できないため、何度も確認をしながら業務を行います。

会計処理業務は、お金と密接に関係がありミスがあると取り返しがつかないため、常に確認作業を行っていることが分かりました。また、顧客との間で守秘義務があるため、他の顧客のデータを送っていないか確認し、責任をもって業務に取り組んでおられました。

今回のインターンシップを通じて、社会人として仕事のやりがいや大変さ、働くことの責任を体感しました。また、円滑に業務を進めていくためには、事務所内やお客様とのコミュニケーションがとても大切だと感じました。今回の経験を生かして今後の学校生活や、来年度の就職活動に役立てていきたいと考えています。ありがとうございました。

環境保健センターでの実習 チームワークの大切さ

YK大学：看護栄養学部・栄養学科・2年

期間：平成27年9月14日～16日（3日間）

私は今回のインターンシップで、環境保健センターでの食品分析に関するお仕事を3日間で体験させていただきました。私は食品に関わる仕事に興味があり、食品の分析を行っている職場を希望いたしました。3日間のおもな実習内容は、初日が大歳庁舎と葵庁舎の業務説明と施設見学でした。2日目と3日目は葵庁舎の食品・医薬品分析グループの中で、加工食品中に含まれる残留農薬の分析とナシフグに含まれるテトロドトキシンの分析を行いました。この2日目と3日目は、実際に白衣を着て実験室で食品分析の作業を行いました。この実習を通して働くことの大変さや楽しさなど多くのことを学びました。

3日間の実習を終えて最も強く感じたことは、チームワークの大切さです。環境保健センターは主に研究や分析などを行っており、個人個人での作業が多いものだと思っていました。そして、チームワークと聞くと、病院や施設での他職種連携というイメージを強く持っており、研究職にチームワークというイメージをそれほど強く持っていませんでした。しかし、今回実習をさせていただいた部署では、一つの分析をそれぞれ担当を決めて作業を行っていました。勤務している方にお話を聞くと、一人で分析を行うこともあるが試料の数が多いときは複数人で行うそうです。複数で行うときは連携ミスが分析の結果にも影響するため、チームワークがしっかりと成り立っていることが大切であるということがわかりました。分析を行う際は黙々と真剣に行っており一見すると個人作業を行っているようにも見えました。しかし、それぞれ作業を分担されていると聞きチームワークのよさを実際に感じることができました。食品の分析において、もしも操作ミスなどにより誤った物質を検出してしまうと、食品製造会社が商品を自主回収することになり利益に影響を及ぼしかねません。そのため、間違いのないように分析回数を増やしたり、分担作業を行うことで信ぴょう性を高めているそうです。

私は将来、管理栄養士として働くことばかりを考えていました。そのため、就職について考える際も病院や福祉施設などに興味がありました。しかし、今回のインターンシップで食品衛生監視員の資格があれば環境保健センターで働くことができるとお聞きし、大学で食品衛生監視員の資格が取れるため将来働く職域が広がった気がしました。また、環境保健センターの仕事を体験して、消費者から直接見えないところで地道に食の安全を調査している姿がとてもかっこいいと感じました。そのため、今回のインターンシップで学んだチームワークの重要性はもちろんですが、日頃の学校での授業を今まで以上に力を入れて勉強していきたいと思いました。

最後に、今回のインターンシップでお世話になった皆様、お忙しいところ丁寧なご指導ありがとうございました。

産業技術センターでのインターシップ体験

自分に足りないもの

U 高等専門学校：物質工学科・4年

期間：平成26年9月8日～12日（5日間）

今回5日間お世話になった産業技術センターの事業内容は、県内企業の技術支援であり、県内の様々な企業と話し合いの場を設ける必要があるため出張が多く行われています。今回の実習中にも、産業技術センターと関わりのある企業との交渉現場に立ち合わせて頂いたり、「やまぐち医療関連成長戦略推進協議会 シンポジウム」などの、貴重な講話を聴いたりと様々な体験をすることが出来ました。私はこの出張体験で実際に話し合いをされている現場を見させて頂き、何より皆様のコミュニケーション能力の高さと積極性にとっても驚きました。自分の意見をしっかりと持ち積極的にそれを伝えていこうとする姿勢でありながら、相手の意見も尊重し合い、円滑に話し合いが進められている現場に立ち会うことができ、大変勉強になりました。この体験をし、自分に足りないのはやはりコミュニケーション能力と積極性だと痛感しました。豊富な知識も必要ですが、自分の意見を常に持ち続け、それを周囲に伝えようとする姿勢が大切だとわかりました。今後は、自分の意見を常に持ち続けることから始めてみようと思いました。

また、実習として鯨油や牛脂を使用した石けんの製造についても教えて頂き、実際に石けん作りや、鯨油のカラム精製の実験をさせて頂きました。石けん作りやカラム精製など、学生実験で使用した器具や授業で学んだ事が実際に使われている現場を体験して、学校の実験や授業の大切さを改めて感じることができました。正しい知識を持たずに実験を行うと、大きな事故にも繋がって大変危険だと分かり、もっと勉強に励まなければいけないという意欲が湧いてきました。

今回の研修中には、幅広い年代の職員の方と様々なお話をさせて頂くことができました。普段の生活ではお話をさせて頂く機会のない方々との会話はとても新鮮で、社会人の、また人生の先輩として、過去の体験談や社会の仕組みなど様々なお話を聞かせて頂きました。高専を卒業したら就職することしか頭になかった私に、ほとんどの方が大学や専攻科に進学し、まだ勉強をするべきだとアドバイスを下さり、将来に対する視野をとっても広げることができました。たくさんの方とお話をさせて頂いても緊張しましたが、なにより楽しかった気持ちの方が大きいです。普段は友達や家族としか会話をしない私にとって、とても良い刺激になりました。

今回のインターンシップを通じて、実際に仕事をされている現場を見て体験させて頂いたことで、社会人として働くということを具体的にイメージすることが出来るようになりました。社会人において必要なものも分かったし、自分に足りないものを見つけることもできました。また、幅広い年代の方との会話は、漠然としていた将来に対して視野を広げることに繋がりました。5日間もの時間を割いて、様々な貴重な体験をさせて頂いたことに心から感謝しています。この経験を通じて得たものを、今後の学校生活や就職活動に活かしていきたいと思っています。自分に足りないものを見つけ、自分自身を見つめ直すことができた、有意義な5日間でした。



税理士事務所でのインターンシップ研修

広がる価値観

Y大学：経済学部・3年

期間：平成25年8月26日～30日（5日間）

私は公認会計士を目指して会計の勉強を専攻しているので、実務と自分の学習がどう繋がっているのか知りたくて税理士事務所を希望しました。インターンシップ先に何うまでは、勉強と実務はあまり繋がってないと思っていたので、全く仕事内容のイメージが湧かず、期待より不安の方が多くありました。しかし、実際に企業で体験したことは自分が勉強してないと相当時間のかかる作業になることが分かりました。企業の伝票の集計、現預金の整理、財務諸表作成、財務諸表分析、と行っていく、自分の手で企業の数字が組み合わさっていくのを体感したとき、少し笑ってしまうぐらい楽しいと感じました。自分の勉強していることは実務にしっかり繋がっているという実感と、意外と自分は事務仕事に向いているかもしれないという発見など、働いてみないと分からない感覚が湧きました。

税理士の先生の計らいで、監査法人での長い実務経験もある会計士の方を呼んでいただき、お話を伺いました。私は元々会計よりも出版の方に行きたいという気持ちをずっと持っていて、会計の学習をしつつもこれで良いのか、ほかにやりたいことをやらなくていいのかという自問自答がずっとありました。それを会計士の方に伝えると、他にやりたいことがあるなら、会計士資格を取得して、実務経験を積んでからでも遅くない、むしろその方が競争率の高い出版社には近づくのではないかとアドバイスを頂きました。社会人の方には就職先を変えるという選択肢は珍しくないのかもしれませんが、私にその発想はなかったのが驚きました。それと同時に、会計の学習にまっすぐ迷いなく取り組める自信も湧いてきました。今、自分が行っていることが、将来のやりたいことに繋がるとか繋がらないとかではなく、自分で繋げていくという姿勢を持つ必要性を感じられた気がします。

もう一つ、税理士会の勉強会に参加させていただいたことも大きな収穫がありました。あまり堅い会ではなく、7人でわいわいと雑談をしながら進められていくもので、質問しやすい雰囲気での会でした。そこで、税理士の先生方の受験時代のお話を聞かせていただきました。意外と大学を卒業してから勉強を始めたという方が多く、10年近く、またはそれ以上かけて資格を取ったり、大学に入り直したり、一回勉強をやめて全く別の勉強をしていたこともある先生もおられたり、自分の想像より長い期間をかけて学習していた方が多くて驚きました。在学中の試験合格しか視野になかった自分にとって、合格にたどり着くまでの手段は限られたものではないというのはかなり新鮮な考え方でした。

インターンシップ先での出来事はとにかく初めてのことばかりでした。20も30も年上の方と何人もお話させていただく機会なんてそうそうないことなので、緊張すると同時に、楽しい、面白いという感覚をたくさん味わえた5日間となりました。自分の視野がいかに狭かったかという反省と、将来もインターンシップ先で出会えたような意欲的な先輩方とたくさんお話をしたいという希望が湧ききっかけを作っただけに感謝でいっぱいです。就職活動だけでなく、就職してからも思い返すことの多いような貴重な経験となったと思いますし、税理士や会計士の先生方のように会計の専門家として働けるよう、これからは迷いなく勉強を頑張る気持ちを忘れずに過ごしていきたいです。